

福島原発事故、いまだに収束せず-孤独死も自殺も増加

いま、原発の再稼働なんてどうもできない

18日、19日と福島へ行ってきました。訪ねたところは南相馬市、浪江町、飯館村です。東京電力福島第一原発の事故から3年4カ月。現地はいま、どうなっているか。以下は南相馬市、浪江町を訪ねた時のルポです。

「浪江、小高へ行くと分かりますよ。人がいませんから」そう言ったのは案内役を務める志賀さんだった。

田んぼという田んぼは作付されていない。地盤沈下で水はけがない田んぼもある。道をはる車のほとんどは除染の仕事をしているトラックだ。海が近くになると、船や車がいくつも大地に転がっている。これは岩手で見た光景と同じだった。でも、こちら福島では復興の兆しは全く感じられない。聞こえてくる音はユンボのカタカタという音ぐらいなもの、あとは風の音だけだった。

被災地視察報告

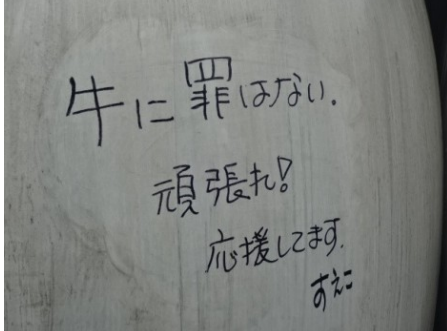
「浪江、小高へ行く」と分かりますよ。人がいませんから」そう言ったのは案内役を務める志賀さんだった。

田んぼという田んぼは作付されていない。地盤沈下で水はけがない田んぼもある。道をはる車のほとんどは除染の仕事をしているトラックだ。海が近くになると、船や車がいくつも大地に転がっている。これは岩手で見た光景と同じだった。でも、こちら福島では復興の兆しは全く感じられない。聞こえてくる音はユンボのカタカタという音ぐらいなもの、あとは風の音だけだった。

「浪江、小高へ行く」と分かりますよ。人がいませんから」そう言ったのは案内役を務める志賀さんだった。

浪江町前のモニタリングポストの数値は、持っている

浪江町の「希望の牧場」



「希望の牧場」へ向かってバスは山の中に入った。浪江町の「希望の牧場」へ向かってバスは山の中に入った。浪江町の「希望の牧場」へ向かってバスは山の中に入った。浪江町の「希望の牧場」へ向かってバスは山の中に入った。

一度、餌を運んだ。殺処分は証拠隠滅だ。生きた証拠として牛を飼っている。飼っている牛の中に10頭ほど白い斑点が出ている。内部被ばくによる突然変異が皮膚に起きたんではないか。浪江町の家は鼠と野生動物のみかになった。お墓は倒れたまままだ。孤独死、自殺が増えてきている。仮設住宅で死ぬ人も多くなっている。棄民状態だ。いま、また原発の再稼働をしようとしている。原発の時代に逆行している。3・11は終わっていない。オリンピックで震災復興は後回しになるんではないか。あと、2、3回原発事故が起きないと分からないんじゃないか。話をきいている間、すぐそばで4頭の和牛が泥につかりながらサイレージを食べていた。どうも酪酸発酵しているようだ。それでも牛たちは絶え間なく口を動かしていた。サイレージの山のなかのひとつのところにマジックでメッセージが書かれていた。「牛に罪はない。頑張れ！応援しています」。涙が頬を伝った。



【オトギリソウ】オトギリソウ科の多年草。漢字で「弟切草」と書きます。花は黄色できれいですが、何か謂れがあるのでしょうかね、こんなおっかない名前が付けられたなんて。花言葉は「怨み」「秘密」。

はしづめ法一の活動レポート

No.1667 2014.7.27
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら
橋爪法一 検索

今度、イメージキャラクターの入ったお菓子を用意するんです。それとハッピーカフェは二年生と三年生が一緒にやります。吉川区体育祭で、県立吉川高等特別支援学校長の赤松先生にそう言われたら無性に行ってみたくありませんか。

ハッピーカフェというのは同校で取り組んでいる「喫茶店」の名前です。日本語に訳すと、「幸せ喫茶」といったところでしょうか。一年生が取り組んでいるスマイルカフェもそうですが、地域の人たちから学校へ来ていただいて、コーヒーや紅茶などを飲んでもらい、生徒たちはそこで接客の方法などを学びます。地域の人は参加者同士で、あるいは学校の生徒や教職員と交流して楽しんでいきます。

赤松先生からハッピーカフェの開店日時を聞いていましたので、先週の水曜日の午後、出かけてきました。

学校の玄関に入ると小さな靴がいっぱいありました。案内してくださった職員さんからは、「吉川保育園の年長組さんたちが大勢来てくださったのです。これだけ混むのは初めてかも知れませんが」と言われました。

三階の「喫茶店」はこの日、大繁盛で満席でした。グラウンドの見える待合室に案内されて入ると、吉川保育園の子どもたち十数人がいました。そこには、保育士をしている長女も村松さんもいるじゃありませんか。びっくりしましたね。でも、うれしかった。待合室には五分くらいいたでしょうか。柿崎区の人たちと少し話をしてから、窓際へ行き、外を眺めてみました。この日は青空が広がっていました。とても、すがすがしい。窓から一〇分ほどのところにある背の高い木やグラウンド脇にある桜の木は緑の葉につつまれている、風に揺れていました。

「お一人でお待ちの橋爪様、どうぞ」そう言われて、「喫茶店」に入ると、いつせいに「いらっしやいませ」の声がかかりました。おそろいのオレンジ色のエプロンをつけた生徒や職員さんたちが声をかけてくれたのです。店内には私より少し早く入った保育園の子どもたちや吉川区福平の農産物直売所のお母さんたちがいました。

私は最初、一人用の席に案内されました。座ると学校の中庭が見えるものの、店内の様子は振り向かないとほとんど見えません。ちよっぴりさみしい気分になっていたのが伝わったのでしようか、赤松先生が「子どもたちと一緒にテーブルに移動しませんか」と声をかけてくださり、甘えさせてもらいました。

椅子ごと移動すると、保育士の高野先生が私を子どもたちに紹介してくださり、おしゃべりを楽しみました。この日、私はアイスコーヒーと水ようかん、子どもたちはお茶と水ようかんのセットを注文しましたが、保育園の子どもたちと一緒に飲み、食べる時間を過ごすなんて数十年ぶりです。高野先生に「水ようかんの中にクリ(栗)さんが隠れているよ」と言われ、みんなで見つけました。また、みんなでピースをして記念写真も撮ってもらいました。まさにハッピー(幸せ)でしたね。

この日が初登場のイメージキャラクター、「カフェマメくん」のお菓子は米菓です。両手を横に突き出した「カフェマメくん」の元気な姿と吉川高等特別支援学校の名前も入っているのが、今後、このお菓子が目当てのお客さんが増えるかも知れません。店を出た時、赤松先生が「三年生は二年生をリードするし、二年生はわからんことがあれば三年生に訊いています」と言われました。ハッピーカフェはまだまだ進化しそうです。



議員勉強会

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	7月16日(水)	7月23日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.050	0.056
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.046

22日の議員勉強会で頸城酒造(株)社長の八木崇博さんと(株)岩原葡萄園社長の坂田敏さんの講演をお聴きました。

八木さんは柿崎区での若手稲作農家と一緒に取組を紹介、「美味しいものをつくれれば売れるが、それだけではきびしい。存在意義を地元の人たちから認められ、愛されるようにならないといけない」とのべ、東横山での米づくり、それを使った酒造りを語りました。2年間の取組の中で得た結論は、「農業をする人が地域にい

ないと続かない」でした。中山間地の現状や特性にもふれた話は上越市の中山間地域振興基本条例そのものに沿った内容で、うれしくなりました。

坂田さんは川上善兵衛の苦闘の歩み、いまのワインをめぐる現状と造りへの思いを語りました。質疑応答のなかで市議会が取り組んでいる地酒で乾杯条例にも言及、「ワインは地酒に入らない」「若者に押し付けにならない配慮を」との率直な指摘は今後の条例づくりにも影響を与えそうです。

日本共産党演説会でお話しします

日本共産党上越地区委員会は8月1日午後7時からリージョンプラザで日本共産党演説会を開催します。入場は無料です。

弁士は日本共産党参院国会対策委員長 井上さとし議員と私、はしづめ法一です。井上参院議員が安倍内閣の暴走政治にストップをかけ、国民の暮らしを守る道を、私は県政の課題と日本共産党の政策を語ります。誘いあって、ご参加を。

